

NHKスペシャル

調査報告 “見えない貧困” (仮)

2月12日(日) 午後9:00~9:49 総合テレビ

子どもの6人に1人が、「相対的貧困」と呼ばれる、ひとりあたりの所得が標準の半分に満たない世帯で暮らす日本。その対策は喫緊の課題とされながら有効な手立てを打っていない。そうした中、東京、大阪などの自治体や国が初めて大規模調査を実施。世帯収入だけでは見えない貧困の実態を可視化し、対策につなげようとしている。調査からは貧困を見えにくくしていた要因も浮かび上がりつつある。1つ目は、ファストファッションや格安スマホなど物質的な豊かさによって粉飾されること。2つ目は高校生のアルバイトなど子どもたちが家計の担い手になっていること。3つ目は、本人が貧困を隠すために、教師や周囲の大人が気づきにくいことだ。こうした状況を放置すれば、生産性の低下などによって将来の社会的損失は40兆円に上るという試算もある。進学率の低迷、生活保護や社会保障費の増加など、社会全体のリスクとして捉えるべきと専門家も指摘する。相対的貧困に直面する子どもたちの実態ルポとデータ解析に専門家の提言を交え、「見えない貧困」を克服する道筋を明らかにしていく。

